WASON
HQ
1104
J74+
Sept 18
no.

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

明治二十年九月三日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府内無郵送税

第七十四號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 74. SEPTEMBER 3RD, 1887.

第七十四號

EDITORIAL:—On Fine Art: No. II—As Woman's Specialty.

LEADING ARTICLES:—Alcoholic Poison: No. II, by Mr. S. Tsuda; Woman's Education, by Dr. Spinner.

MISCELLANIES:—Three Princesses of "King Lear" No. II; An Address to Queen Victoria by the Woman Suffrage Societies of Great Britain and Ireland; A Summer Tour to Shiobara.

CRITICAL NOTICES:—A New Novel:—"Ukigumo" by Mr. Tsubouchi.

BIOGRAPHIES:—Mrs. Fry: No. II.

NOVELS: —"The Fragrant Rose:" No. VIII.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社説 美術論(美術は婦人の擔任すべき事)

●論説 酒の害第二(津田仙君)女子教育論(獨乙學士スピンナル君)

●叢話 三人の姫(第二)○英國女皇に奉る女子投票會よりの書○塩原入浴の記第一(鈴木弘恭君)

●批評 浮雲の褒貶(石橋忍月)

●佳傳 フライ夫人の傳(第二)

●小説 薔薇の香第八回(月のやしのぶ)

●新報 十件

●廣告 婦人矯風會員姓名表

○女流小言漫錄(其三)

○或る家に使かはるゝ下婢來りて云ふ我家の妻君は口姦しく掃じなど命ずるも自身は水の一ぱいも汲みし事なくいそぎの使ひを命ずるも己れハ常に火鉢の傍らに閑座し朝は拂曉に起き出づるも夜は十二時を過ぎざれば眠る事を許されず熱心に働らきても慰勞の語なく慰勞の語なきのみならず薪の燃し方を叱り衣服の着様を罵り食事の食べ方に小言を云はれ子供のいたづらも下婢の不注意也とせられ洗濯物山を爲すも妻君は悉皆之れを下婢に托して知らざる物の如く臺所を片付けんとすれは座敷を片付けよと命ぜられ座敷を片付けんとすれば臺所の不潔なるを叱られ其他障子の破れより椽の下の塵庭の草など迄でに小言を頂戴す二六時中叱聲の絶ゆる事なし實に下婢の苦しみは人の推察し得べき者に非ずと尤より取るに足らざるの言なれども世にはかゝる口やかましき妻君のあるものにやもしこれあらば余ハ默々に付する能はざるなり。

○朋友に交際する時一方にハ非常に親密に一方には疎なるようなる擧動あるべからずこれより多く不和の生ずる者あり女學校などにては別けて謹み度き者ぞかし。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第七十四號
明治二十九年九月三日

●社說

○美術論

（第二）女流が美術を擔任すべき事

山水の好風景は自然に美術の妙處を現はし繁華熱沓の都市は自らに技術の長處を示す彼此各其の專にする所に於て尤も多く行はるゝものと雖も人世平常すでに此の二つを兼ね要すると明白なるが故に彼の好風景を都市の內に作り閑雅幽邃の趣を繁雜多忙の界に現はし所云る松嶋橋立の美を東京西京の眞中に打ち立んとす其事甚だ不可思議なるを以て之を或は只だ奇を好むの議論なるが如く思ふものもあるべし然るに今ま世間の實際を考ふる時は活潑有爲なる幾多の人々が何れも皆な如此き趣向あれかしと熱望すると勿論なるが上に現に昔しより知らず識らずして此類の工夫を行ひ居るの有樣を看破らんには前一篇の社說も亦た左程に奇しむべきものにあらざるを知るべし。

即ち山水の間に美術の妙處あるが如く世上人々の家內には亦た美術の趣尤も多く行はるゝが如し、男子終日奔走して技術を勸め疲勞鬱々として家に歸れば門を入るとき先づ妻子兄弟の悅ばしく出でゝ迎ふるものあり心未だ至らざるとも顏先づ自づからに笑はざるとなし斯て談笑の間は共に夜食を取り終つて兼て心得たる琴一二彈の音色に心中の煩はしきを一洗し床の間に插みたる一枝の花に言ふ可らざる趣を寄せ小供等が取廻いて讀む昔物語の罪なきに淡泊の面白味を感ず愉快無限と云ふべし之を彼の終日或ひは算盤珠の加減に眼を曝し或ひは損益利害の岐に身を立つる俗々しき境界に較ぶるときは雅致の相ひ異なると天地の如し恰かも是れ都人が閑靜の山水に遊んで喜樂平和を感ずると同樣の係はりあるなり之を以て技術は多く世上の競爭塲に行はれて美術は自づから家內に其趣を示めすとは云ふなり而して此の家內に美術の行はるゝは即はち世に家族と云へるもの存在したるの當時よりして既に行なはるゝものなるが故に今に於て世人之を奇しまざるべし彼の都市熱沓の間だに山水の美術を現はすと云へるものは即はち此と同樣の義にして其相違は只だ一家の庭前に箱庭を置くと都の四方に公園を置くとの相違に類するものと云ふべき也。

吾人此に至つてつら〳〵考ふるに世に美術と技術との存する

は猶ほ天に晝と夜とあるが如く人に覺むると眠るとあるが如く事に勞と休みとのあるが如く食に養ひと味ひとのあるが如し、故に采根を食つて百事爲すべしと云へることの漢學者流の誤たるを知らば食物は啻に人躰を養ふのみならず亦た口に味ひある所のものあるべきを知らん手に卷を棄てずして讀つゝけたる古しへの學者が大抵無用の虚弱者と爲つて早世無嗣たりしことを知らば勉强は啻に勞働を要するのみならず亦必らず安息を要することを知らん故に天も常に日あつて斷へず晝あらば草木必らず死すべし人たゞ覺めて眠ることなくんば數日にして乍ら倒るべし玆に澤々たる夜の露あり夜間時に無何有の郷に遊ぶの樂しみあつて始めて萬物よく生育するものたるを知るなり、之を以て美術の世に切要あるは技術の世に用多きに異ならざるを知り亦た美術家の世に多からんことは彼の技術家が世に多からんことと共に吾等の熱望すべきことあるを知る此に於て吾人は吾が同胞姉妹が專ぱら世の美術を擔任あらんことを希ふて止まざるもの也。

蓋し事を爲すは勞を分つて善とす世に百姓は鍛冶屋の鋤を買つて米を作り鍛冶屋は米を百姓に買つて鋤を作る農工もし共に鋤と米とを作らば其の手數は莫大にして得る所ろ甚だ少なかるべし國家の經濟に於て大ひなる損亡とする所なり、故に吾人は男女の同等を信ずると共に兩性の氣質に相違する所あるを確信し兼てより男女が世の仕事を爲すに於て各勞を分擔すべきことを主張せり今ま技術と美術との兩つに就て之を考がふるときは吾人は世の兄弟が專ぱら技術に任じて姉妹諸君が主として美術を擔任あらんことを望の理あるを思へり。

抑そも美術の神髓は死物に息氣を吹きかけて立てよと命じ則はち飛動踴躍せしむるものなり、土を捏ね石を彫みて之に生きたる樣姿を出さしむることを彫刻の術と云ふ十三の糸七つのキーを叩いて樂器自ずから無限の感情を吐き以て英雄を泣かせ鬼神を歎ぜしむるを音樂の術と云ふ黑白照應し赤紫の色相ひ適合して草木鳥虫を紙面に躍り出さしむるを繪畫の術と云ひ無形の人物一卷の中に生死會離し困難喜樂の情を示すもと想像中の人をして恰かも活世界の人間の如く笑歎喜憂せしむるものを小説の術と云ひ心中に眠むる無限の想ひを起し世間に密む幾多の事情を現はし動かざる山を動かし流るゝの水を反へし山川草木動物人類及び人の一身に隱れたる數多の小人物悉く生命を得て飛動す之を詩歌文章の術に得るなり美術に主旨とする所ろ大抵如此きものなるが故に大凡美術の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

藝に卓越せんとするものハ先づ感情の甚だ熾んなるものたらざるべからず感情火の如く燃へ外物一度び之に觸るれバ心中乍まちにして燃ゆるが如くならずんバ立派なる美術品を造り出さんと甚だ難きものなり古來美術の上に於て著名なる人物の傳紀を讀むに其の感情の強きと大抵半狂人に類するが如きものあるを見るは即ハち之が爲めなるべし而して男女の何れか多く此の如き性質を有つやと云ふに無論その女流に在らんと必定なるが故に.かの多く剛毅沈着果斷忍耐等を要する所の技術を男子に托すると共に吾が姉妹諸君が自から美術の一方を擔任なさんとは常に然るべきの道なるべし男子は外に働き妻ハ家を守り男子は外に技術を行なつて妻は家に美術の趣きを示す世上の家々は既に已に夫婦間に如此く勞を分つものなり左らバ今ま世間惣躰の美術を婦人の一手に執り其の温和優美なる感情を以て無味淡泊なる世上の大砂漠に水そゝがバ人類半數の男子ハ之に依つて始めて憂を解き欝を散ずるの愉快を得べきなり姉妹諸君が美術に任ずる事眞に愉快至極の覺悟と云ふべき也。

The only countries which have produced first-rate Composers (Musical), even of the male Sex, are Germany and Italy—Countries in which, both in point of special and of General cultivation, women have remained far behind France and England.

J. S. Mill.

● 論説

○酒の害（其二）

津田仙　演述
若林玵藏　筆記

酒ハ壽命を縮め精神を鈍くする一の例を擧ぐれバ英國に三人の詩人がありましたそれハ李白の樣な酒好きでありましたが此三人共三十八歳を越さない名高き詩人で御坐いまして是れハ何歳の時作ッた詩と云ふとハ書て御坐いましたが少壯い時に作ッた詩ハ良く出來て死ぬ前にハ餘程衰へて段々惡くなりました是れハ前の統計に能く似て居ります所が亞米利加にも有名なる三人の詩人が御坐いまして此の人ハ三人共一切酒を飲ません此三人ハ若い時より年を取に從ひ能くなッて老いて益々良ありました其中一人ハ八十一歳で今尚ほ生きて居ります其一人ハ七十五歳で死に一人ハ八十四歳で死にました孰れも七、八十にあッて作た詩ハ三十代より却て良く出來たと云とであります一方ハ年を取るに從て詩が惡く出來一方ハ年を取るに從て良く出來ると云ふハどう云ふ譯で御坐いませうか酒の爲めでありまして詩抔ハ身躰が衰へても惡く出來るもので御坐いません段々進むもので御坐いますに酒を飲めバ却て其詩が衰へます其外酒の爲めに直接に倒れるものが御坐いま

す今日私が此方へ參る前に新聞を見ますると十二日に橫濱の「ホテル」で本國に家内もある西洋人が短銃で自殺したと云ふとがありますが是れも全く酒の爲であると申します斯く云ふとは新聞に度々ご坐います其外酒の爲めに發狂するものも澤山あります酒ハ肉躰を害し精神を衰へしむるは今申した通りでござゐます此外酒の害は品行を亂し或は淫奔或は醜行をなし酒は淫を導き又淫は酒を導き淫酒互に人間に害を與へると夥しく是れが爲めに或は酒を飮で巡査の厄介になッて罪を受けるものもありそれ而已ならず酒を飮で放蕩になり放蕩の爲めに金がなくなり金が無くなッて盜みを致し終身を誤まるものは世間に少なくないとて御坐います是れは貴君方には關係はご坐いませんが世間には澤山ご坐いますから其れを貴君方が救ふ爲めに申し上るのでご坐います實に酒と云ふものは廢止させなければなりません其れに就て酒を導く處の惡いものがご坐います即ち藝妓や何かでご坐います酒が藝妓を勸め藝妓が酒を勸め互に勸めますから之れを防ぐ方法を立てなければありませんと存じます又經濟上から申しても酒は我邦の米を壞すと四百萬石の多きでご坐います其外葡萄からも麥からも色々の物から酒に壞します又外國から輸入する酒の金高も實に數十萬圓でご坐いまして益相加へて數百萬圓になりませう其金は如何したかと云ふと實に惰樂不品行を買ふ資本でご坐います或は西洋酒は味を良く拵へてご坐いますから益々此方へ入て來るのが多くなり麥酒が宜しい葡萄酒が宜しい西洋酒は翌日迄醉が續かないから彼れが宜しい杯と云ひ又新聞紙杯を見ても御藥葡萄酒杯と云ふとがご坐いまして病氣見舞に酒を持て行く樣になり酒を藥の中に入れる樣に成て居りますが外國では段々吟味して酒は毒物であるから國內より逐出さなければならんと云て亞米利加杯では五縣丈けは全く酒を禁し酒を買うには戶長役場へ願ひ出て戶長の奧印を取り毒藥を買ふと同じ手續になりました其中の「メイン」と云ふ國は貧國でご坐いましたが酒を禁してから遂々盛んになり今は日の出の樣な國になりました。

日本と云ふ國は鳥渡表面を見ると開化に赴いたと云ふが今は表面の開化で極く大切な時でご坐います私共は心配になッてなりません是れから外國と永久幷び立て行けるか行けないかと思ふ所でご坐います其時に當て知識體格は匆々チヨックリ直りません疲弊して居ります記臆力はご座いません競爭する世の中になッて外國人が入て來て外國人が自在にするとにな

れバ日本人の命ハ危きと累卵の如くで御坐ひませう今日本を救ふハ誰に依て救ひませうか酒のと杯ハ餘程前から惡いと云ふとが分りまして築地に於て禁酒會の說教が御坐いまして西洋でも政府に願て禁酒を致しましたが効能が御坐いません唯効能の有たのハ婦人禁酒會で御坐います婦人禁酒會ハ二十五年前から出來まして婦人の思想を一變し宴會などへ酒を賣らせんとに致しましたナント婦人の力ハ多ひでハありませんか故に今私ハ日本の婦人の爲めに請願を致しますとが御坐います。

我日本國ハ今の通り數百萬圓數千萬圓の金を惰樂と不健康との爲めに費して居りますが其れを防ぐにハ婦人禁酒會を設け貴女方の力を以て酒を禁じなければなりません租稅の金より酒の金の方が多く御坐います鐵道ハ頗る便利のもので御坐いますが今日本人が一年のあひた酒を飲まなければ其金を以て日本の端から端まで鐵道を布くとが出來ます又其翌年酒を飲まなければ日本の物產を興すとも出來ます酒を飲まなければバ人も活潑になり懲役になるものも少なくなります併し是れハ勿々私杯の演說位で日本の人が悉く承知するものでない銘々に酒を禁ずる考へが起きて來なければなりません其處に至て婦人ハ一番力あるもので御坐います今此處にある所の婦人方ハ姉妹で御坐いませう今其貴女方の手を以て大敵を拂ふとを常に御忘れなく御盡力になるとを偏に冀望致します實に此日本の文明ハ是れより新に生れて參ります是れから獨立が出來るか出來ないかと云ふ處で御坐います是れから總てのとが起て來ますが是れまでの通りなれバ退步で其末ハ誠に氣遣はしいとで御坐います其先きが下らずに我か國の文明が盛んになり我國の力が强くなるハ貴女方の力にあります亞米利加の禁酒會の大統領ガルヒールドの婦人の御話を仕たいと思ひます成程貴女方ハ酒を飲まんが其緣付て行て舅や夫が酒を飲むから仕方がないと云ふか知れませんが若し嫁に往げバ舅も夫も愛さなければなりません其愛する人の身體に害があり壽命が縮まり其子孫が惡くなるとすればどふかなして酒を廢めさせなければなりません亞米利加のガーヒールドと云婦人が夫が大統領に選まれた時亞米利加でハ大統領になれバ御馳走を致ます其の饗應の時に當て其夫人が主人となつて接待なければなりませんが自分は禁酒會員である故に酒の席へ出るとが出來ません故宴會を廢めるか酒を廢めるか孰れかにして貰ひ度いと云て夫に逼た處が其れハ國の御馳走であるから酒を禁

するヿが出來ないと云ふヿ國の御馳走なれバ害になるヿハ尚ほ禁じなければならんと云て遂に其御馳走にハ酒を飲ませないヿになり國の害となるヿを國民に勸むるヿハ出來ないと云て酒無しで御馳走した所が實に國の爲めに盡す難有い人であると云て皆な感服したと云ふヿでありますから貴女方が御嫁に往ても其通りにしなければならん其れが爲めに却て神の榮光を外に放ッヿが出來ます困難の事があければバ神の御榮へを放ッヿハ出來ません何卒今我國も墮落に陷り財産もなくなり健康も害する時に當て貴女方の手ハ此大敵を防ぐに足ります貴女方の三寸の舌ハ充分に之を防ぐヿが出來ますから共に此害を防ぐヿを偏に冀望致します。

○女子教育論　（續編）　獨逸國學士　スピンチル

左は女學雜誌第六拾參號迄に掲げたる女子教育論の續編として獨逸國學士スピンチル氏より惠送ありたるを向軍治君が抄譯ありたるものなり

小兒の心中にハ忠信の感覺を鋭利にすべし小兒を養育する者は自ら信じて其必ず僞はり能ハざるヿを證し能ふ程に養育せさるべからず又小兒の心中に苟も誠ならざる言語は盡く之を忌憚するの念を發せしめさる可からず然れども世人の爲す所を見るに屢しば之を爲す者あるは何ぞや若し虚言を吐くときは小兒は恰も無言にして唯熟考する立會證人なり虚言短脚とハ獨逸の俗諺に言へる所なり蓋し人を欺くものハ却て己れを欺くのみ一の虚言は他の虚言の基となり虚言相重なりて遂に高尚にして且つ神性に等しき人性を消滅す小兒をして爲無きと鳩の如くならしむるも他日智識の發達するに從ひ經世の巧術は自ら當に發すべきのみ。

宗教上の教育ハ凡そ教育論中最要の者なり予歐外に在るの日屢〱宗教上の發達に乏しき輩の言ふ所を聞に曰く余輩の小兒は宗教上の教育を受ざるべからずと若し宗教は只小兒の爲に一頁手段なりと云ハヾ則ち誤まれりと雖ども而も此輩の言ふ所ろ眞理其間に存するあるなり宗教上の教育は之を女兒に施すは之を童子に施すより易し婦人の心中にハ自然高尚神聖の感覺存する者にして唯之を善く養生するを要するのみ全能の造物主なる眞神は人別に之を婦人の腦中に證明示教するヿを須ひざるなり彼既に其現存せるヿを確信し之に依頼するの念は實に動かすべからさる也困難に際し耐忍を要するに當て、は婦人の天父に信任するヿ實に切且至れる者なり耶蘇基督は世の小兒を愛する者の中にて最も尊重すべき人なれば其世の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

母たる者に欽慕せらるゝと亦他に超へたり善良なる婦人の心中には潔白なる徳行と云ふ神聖なる精神其力を現はす斯の如し男子は或は時に其宗教上の生活を忽せにすることある者なれとも婦人生活の模様を洞察すれば以て凡そ社會と眷屬とは信神心あらざれば決して此世の上に幸福と平和とを見ること能はざることを證するに足るなり。

斯く精神の能力中宗教道徳の部分は恰も一面の敷地にして其上には婦人の禀性感情及意志の健固に建築せらるべき者なり婦人にして深き宗教上の信仰あるときは其生活の模様の如何を問はず常に確乎晏然動かさること猶喬木深く地中に根して迅雷風烈にだも敢て撓まさるか如し。

吾人の教育上尤も力を盡さゞる可からざる點は禀性の發育に在り故に吾人は女主たる者信神に且つ良教育を受けたる婦人にして即ち一家の扶持者たることを望むなり婦人の艶しき心情の中點たる此天賦の禀性を發生せしむるは是れ婦人教育の主眼且つ神聖なる職務なり。

婦人各種の器量として發育せらるへき者凡そ四つ曰く經濟上の器量曰く家務上の器量曰く職業上の器量曰く教育上の器量是れなり經濟上の器量とは何ぞや凡そ家内にある物は其何たるを問はず苟も猶ほ之を用ゐ得へきときは悉く之を保存すへし日本人は能く海底に生ずる草を取り之を滋養ある食物と爲すが如く凡そ家に備はる物は極めて低價の物なりと雖も亦た之を集め置く可し經濟に巧みなる婦人は之を集め之を保し之を増し之を繕ふ唯經濟に暗き婦人は多く家計を瓦解せしむ此經濟上の器量と極めて親密なる關係を有する者は家務上の器量なり。

日々の需用品を購求し之を割賦し或は之を費用すること善く出納の關係を維持すること等は女主の業なり賣買の點に至ては婦人の男子に勝れること吾人の多く經驗する所なり蓋し家務上の器量は自然婦人の天性に存する者にして之を發達せしむるは最も肝要なることなり。

次に婦人は眷屬中の教育者にして家中教育の方圖を決定す婦人の小兒に接することは自然男子よりは多しとす而して善良なる婦人は常に己れに近つく者は婢僕に至る迄も盡く之を教育す其良人に於けるも亦た感化の功實に大なる者にして唯此點に至ては誰人も之に過ぐること能はざるなり。

次に婦人には其職業上の器量を發達せしむべし女主は最良の裁縫者なり最良の洗濯者なり女主にして家内職業上の財寶を

利用保存せんと欲せは果して何事を理會せは可なるや夫の女兒をして人形を以て遊ばしめ之に襦袢衣服前垂又は夜具等を備えしむる如きは自然の人を導く此の如く夫れ巧みなるなるなり女兒の此遊戯を擴充するときは則ち他日職業上の器量となるなり以上四種の能力を發達せしめんとには如何せは可ならん先つ經濟上の能力に就て之を言はんに經濟に長すとは善く計算し能ふ義なり善く計算すとは安物買の錢失をなさゝるなり又光陰を濫消せざるなり蓋し光陰を失ふは是れ財產を失ふなり之を例せんに爰に一の惰婦ありて一時間に只他の勉强なる婦人の三分の一働くときは此惰婦は其利を得ると亦た只た勉强婦の三分の一に過ぎず今又一年間に六分の一割宛の金を節儉するとせば毎年之を儲へ置とも只た六年間には六分の一割の六倍を得べし況んや之に利息を重ぬるに於てをや計算し能はざる婦人の掌中より金錢の脫するは猶ほ水の篩より漏るゝか如し凡そ計算は婦人をして何物は彼及び全家の爲めに利なるか又何物は害あるかを一見判じ得易からしむ此場合にては婦人の善く計算するは全く正理に適せる利己手段なりと謂て可なり。

家務上の器量の點より論すれは婦人は筆算を能くすると必要なりとす書を能くすとは自己の思考を直に筆にし字句整然立ところに章を成すの能力あるを云ふ又單式簿記に通し且つ商家文通に達せさる可からず蓋し能書能藝婦人は啻に自ら助け得るのみならず時としては亦た其夫に利すると夫の職人たり或は商人たるに關せす常に著しき者にして主人世に即くが如き困難に際しては女主代て家政を攝するとあるに至る。

次に敎育の點に付て云はんに敎育に於て婦人は温雅に自己の思想を顯はし能ふと必要あり能く自己の思想を顯はさんと欲する者即ち己れの意見を言語に現はし以て他人をして曉り得る所あらしめんと欲する者は先つ正しき觀察と正しき理會とを有せさる可からす經驗なかるへからず世事百般に通せざる可からず凡そ事物の主要なるものは能く之に熟せざる可からざるなり抑も諸學術の基礎たるべく且つ近世尙も敎育を受けたる人と稱せらるゝ者は必す通せさる可からざるものなり之を女子に授くるは完全なる敎訓の任にして其善く事の適切なる者を撰ひて之を課し蘊奥玄幽摘發殘す所なきを要す顧に貧民は大半之に充つるの資力を有せざるべく從て前言ふ所の如く完全なるに至ざるべし然れとも彼の斯る高尙なる敎化を盡く利用するとを得る身分にある婦人は其幸福果して何如ろや

職業上の能力を成就せんには先づ網鍼及縫鍼の用法を習ひ裁斷の用に供する鋏を自由に使用する等を熟了し而して後縫箔の如き細密ある技藝に進まざる可からず然るに世の貴婦人中には立派なる飾物等の藝には甚だ巧なれども上着の破れ目又ハ白布類の損處は之を縫塞く能はず且つ極めて簡單なる衣服も之を裁縫する能はざる如き者あり。

勿論聽て一家の婦となるに及では其業漸く繁多なるへく終日坐して裁縫するのみにしてハ事足らざるべし然ども苟も少く損耗せる所あれハ其未だ太しく毀れざるに及で之を補綴する樣始終注目するを要す（未完）

●叢話

○大英國女王陛下及び女子投票會

大英國女王ヴィクトリア陛下は御身女性に居まして万乘の御位に即かせ玉ひ而も大布利顛王代歷朝の中に於て古今に例多からざる治蹟を爲させ玉ふと其の英國人民に執りて非常の幸福あるとは申に及ばず恩德の施いて世界萬國の上に及べる者も亦尠からざるが中に恐れ多くも其一身を以て女性惣躰の雛形と爲し其賢德に依りて女流一般の地位を高めさせられたるとは宇内の何地を問ハず凡そ婦女子たらんもの丶皆一齊に鳴謝して止まざる所なるべし之を以て吾人は陛下が即位五十年紀の祝祭に當て少か此義を論じ且つ日本同胞の姉妹に代つて祝文を陛下に奉り遙かに卑意の在る所を白したりき思に東西地を異にするの人にして既に然り彼の英國に住居する英國の婦人達ハ其喜ぶ所ろ其謝する所ろ及び其の誇る所の者果して如何ん吾人ハ私かに羨望の思に禁へざるもの也

然るに此頃到着したる米國ボストン出版の女學雜誌に大英國及び愛兒蘭に在る數多の女子投票會（女子にして男子同樣の投票權を得んとを主旨として演說談論若く出願遊說等を爲す所云るウーマンス、サッフレーヂ、ソサイエチーなるものあり）より右五十年祝祭の日に當りて女王陛下に奉呈したる祝文の寫しを載せたり故に今ま之を抄譯して以て彼地の女流が何如に此の大祝祭を慶賀するやの趣を示すべし

因に云ふ、女王陛下即位五十年祭の感及び陛下の傳は女學雜誌第六十六號に見ゆ

女子投票會より奉りたる祝文抄譯

女王陛下御治世の中に從來の法例を變更なさせ玉へるもの多し先づ既婚の婦人の財產及び給養に關するの法律次に幼

兒保育に關するの法律次に女子が醫學研究の爲に大學に入るを許し尙ほ之に醫學士の學位を與へ且つ自ら治療の手術を施すことを免がされたるの法律等何れも吾等が至大の幸福なり就中右三令中の最後の免許に由りて印度に在る陛下が臣民なる數多の婦人は最大最上の幸福を得たり此外器械の發明製造所の設立等に付き手職を失ひたる無數の女子をして能く其勞の報を得るに至らしめたる法律を制定あらせられたる事亦た吾人が至大の幸福なり。

陛下は地方廳の處置に就き度々批准を下させ玉へり之に依りて元來地方に於ての撰擧權は男女ともに同一なりしを今に至るまで其儘に維持し尙ほ且つ地方人民中に政權の廣まると共に其女子にも同樣の區域を許し玉ひたる事は吾等が至大の幸福なり。

陛下は英倫及び蘇格蘭に於て租税を納る婦人に限り市府の投票權を附與することゝ相成りたる數多の條例を批准し尙ほ女兒に男兒と同樣の敎育を與ふることを許し且つ學務委員の撰擧人及び被撰擧人となるの權を女子に許したる小 學敎育條例を批准し玉へる事吾等が至大の幸福なり。

陛下はダイワルド條例を批准し玉ひ之に依てアルイ、チツ、マン立法院の一部たるハウス、チツフ、キーの議員撰擧の投票權を制定の財產を所有する婦女子にも同樣に附與さるゝ事吾等が至大の幸福なり。

陛下は御身女性に居まして御位に登踐あらせられたる事英國の王宮には皇女もし世嗣に當らせ玉はゞ其御女性あるが故に之を止め參らすることなく皇子と均しく位に卽かせ玉ふべしとの實例を御示しあらせられたると吾等が尤も慶賀し奉る所なり。

陛下は著名の治蹟を數多擧げ行はせ玉ふて婦女子が政治に立關はるも決して其の家政を理するの務を妨げず尙ほ其の女德の淑貞をも失はざることを御一身の實例に依りて示させ玉ふに依り皇族の御女性が政治界に關はらせ玉ふて均しく人民中の婦女子も亦た之に係はるを得るに至らしめ玉ふは吾等が尤も深く鳴謝する所なり。

蓋し此等の祝文は能く陛下が女流の爲に御力を盡させ玉へる恩德の万一を敘するものと云ふべし。

○鹽原入浴の記　（特別寄書）　鈴木弘恭

葉月七日しもつ毛の國鹽原にゆあみせんとて立いづよべは雨いみしうふり風もふきにたれど曉がたはやみぬればわけぐれ

のほどに門出す」車にのらむとするに女こどものかどにおくり出てまさきくてとく歸り賜へねといふはれいのことながらなほそゞろに心ぼそし」朝日のさしのぼりに上野なる停車場にいたりて滊車にのりうつりぬきてきの聲心ちよくがう〳〵の音かしましきまきたる煙草ひとつをだにつくしはてぬに王子をうちすぎて川口の橋をわたる此の橋は戸田川にかけわたしたりめてのかたに蕨の宿見ゆ朝霧はるかに立わたれり。

「春ならばつみてをゆかむ秋きりのたえまよみゆるわらびなりけり」浦和にいたるになほ人々朝食たうべており大宮より右にをれて蓮田久喜などいふうまやをすぐ此邊は大かたは柴林のみなれどところ〴〵打ひらけたる田畠ありて民家四つ五つばかりづゝ此所彼所にたてりいと見所なき道すがらかたへの田の十町ばかりがいねの中にたゞ一所蓮の花のまさかりにてこきくれなゐと見るに白き花のはつかにまじりたるはことにをかしうてかへりみしつゝ打過ぬ」栗橋に大きなる橋あり川はかの阪東の太郎川なればはゞもひろく流れもたぎりて見るを練瓦を塔の如く高うきづきて柱となしその上に鐵をもてかけわたせるなるが水をはなるゝこといと高くはしりゆく車の窓より川水をのぞめば目もくるゝばかりなり。

「いにしへにおもひもかけずまがねもてかばかりつくるこれの大橋すべて此の滊車のかよひ路なる橋はいづれもおなじやうに造り成されたれどこれなん橋も太郎橋なりける」さて武藏の國は此所にはてゝむかひのきしよりは下つふさの國なり弓手のかたに年老たる松の糸をはえたるやうにながく立ならべるはいにしへよりの大路なりとぞ旅人なるべし菅の小笠かたぶけて行かふが松のひまよりぞ見ゆる」古河といふにつきぬ昔の御所のあともたづねまほしけれど車の中なればいと口惜し」しばしありてまたはしりいづ道の左右あらくぬぎこまつなどのうちしげれるがゆけど〳〵おなじやうなればうんじたる心ちすいつのほどにか國のさかひもすぎにけん下つ毛の小山ありといふ此の驛より東にむかひて常陸の水戸に至るの滊車も遠からず出來ぬべしとぞ」石橋のすくをすぐるに停車場の標札におしばしとかいつけたるはいかなる心にか人わらへならんをとくあらためまほし」之より宇都宮に至る道のほど野べ多しこは那須の原につらなれりとぞ草花今盛なり。

「かくばかり千くさの花の咲く野へはかちよりゆかばすぎうからまし」など思ひやるもをかし弓手の方には二荒黒かみの山々いと近く雲に聳えめての方には筑波なし尾加波雨曳の

嶺々はるかに空につらなれり。

「あづまなる名たゝる山のあらましをとりあつめてもまづ見つるかな」宇都宮にてわりごやうのものうりひさぐを人々かひなどしてくふもありさては山寺わざのかひふく頃にやと思へばまだ十時にもあらぬなりけり」阿久津川にいたりてれいの橋をわたりほどなくまた荒川あり此の川はあくつよりも大いなりこのわたりはまさご地にておのづからはまいしをしきつらねたるが松林ども多くてけしきいはんかたなし。

「瀬をはやみ落くるあゆもみゆばかりすみまさりたり荒川の水」永久保のうまやにてしばし待ほどに郡山よりのぼりくる滊車にあひぬ矢板をすぎて箒川をわたる此の川は鹽原より流れくるなりこなたをかには墜道をうがち川には例の橋をかけたり然れどもいまだなりはてじとにやなほ假橋をわたる」此邊はすべてなすの篠原なれどやう〳〵に畠にすき田にひらきたる所ありて人の家居もところ〴〵に見ゆ近き頃はいづこにも開墾と云ことのおこなはれて田畠のかずもとしごとにますいはるの田のかへす〳〵もよろこばしきとなりなどひとりごつほどに那須の驛ありといへばいそぎ下りぬときにふところの時計は十時四十五分をさしたりさて滊車は黒き烟一筋をのこしてやがて見えずなりぬ」此所に下りたるは三十人あまりなるがみな鹽原にゆあみする人々なるべし車よ馬よといひのゝしるをおのれは午飯たうべてと思ひてすこしいこふほどに車は皆出はてゝなし馬にのり給へといふいかなるとにかくとへばこの驛は近きころまうけたるにてはたごやめくもの三つ四つ車は十二三ばかり馬は六つ七つにすぎざればいそぎたまはずはそれもおぼつかなしなどいふにさてもいみしきうまやなりけりとはおもふものから馬にうちのりて立出ればおとなる人々はつぶやき〳〵かちよりゆくもあり殘りとゞまるもありけりさてこそは車よ馬よといひのゝしりしかと今思ひあたれどかひなし」十七八町ゆきて三島村あり前の栃木縣令三島ぬしがひらきたる村なればしかいふとぞ今は戸のかずも百たらずありて家居のさま那須よりははるかにまされり道の左に高き丘ありて社のみゆるは三島神社とて縣令の徳をまつれるなりなど馬ひくをのこものがたれり」そはとまれかくまれ那須より鹽原をへて會津の田島に至まで十餘里がほど野をひらき山をきりそけ谷をうづめて馬車にまれ人車にまれいとやすらけく行きかふべく造りなされたるはまたくさきの縣令の功なり此わたりの人民が神とたゝへまつらんもさるとぞかし」

○三人の姫（第二段）

良藥は口に苦がく忠言は耳に逆らふとかや忠良無二のケント伯が誠を凝めたる諫言も暴れ狂つたる老王の心を解くに足らず反つて大に之を怒りて五日中にわが王國の領内より追放すべし若し第六日に至つて尚ほ足を留めバ直ちに執らへて刑に處すべしと命ずケント伯は謹んで御承申し臣すでに君の愛を失ひたる以上は例令ひ此地に留まるとも猶ほ配所にさすらうるが如しとて直ちに出發の用意し神々にコルデリア姫の行末を祈願し彼の領地數多を受取られたる兩君に誠あれかしと禱りて殘り惜しくも出で立ちたり。

老王は次にフランス王及びバルガンデー侯を召してコルデリアに對するの處置を如何にか思ふと談して且つ今まは父の心を損じ一物の寶をも有せざる彼の姫を尚ほも娶りたく思ふや否やと問はる、バルガンデー侯は斯る憫れむべき姿にて在らんものを如何で懇望いたすべきと辭ひたるに佛蘭西王はつく〴〵と聞て事の情實を察知しコルデリヤ姫に今まは浮きたる世の寶こそなけれ其誠實なる眞心は將た何物にか比ぶべけん百万の財寶千里の領地は只だ其の一の誠に及ぶべからずとて喜んで婚姻の約を結び姫はたとひ英領を三分したる其一を嗣がざれバとて翌日よりは佛蘭西王國の女皇として我と共に此の大領地を支配し玉へと云はる襄にコルデリアも亦た同一の分前を得て而して不幸にも彼のバルガンデー侯に嫁ぎもせバ一生の不運果して如何ん平日誰れか烏の雌雄を知らん事ありて後ち始めて玉石を判ち斯くも眞實なる夫を得たるは姫が不幸の領内を經たるが故に能く拾ひ得たるの異珠なるべし。

姫は佛蘭西王に伴はれて住慣れし英宮を離れんとし涙にむせびて老王の健康を祈り二人の姉に父君を信やかに介抱し玉はれと云ふ姉は横柄なる顏付して其樣なる御心添は無用なりた〴〵君が夫を喜バせて其心を滿足さするぞ宜しからん妾等はよく自らの義務を知れりと左も惡く〴〵しく言ひ離つ父を此等の人に任かせて遠き國へと旅立ちす泊まり〴〵の宿りの天征衣如何にうるほさん。

斯てケント伯行きコルデリア姫亦た去れり之れよりぞ老王の望むが如く身を交る〴〵兩人の姫に托して靜かに閑日月を送らんとす其の望み果して何如に樂しく爲し終せたる、否な先づ定めの如く最初一ヶ月は長の姫ゴチリルの邸に住まへり然るに姫は兼て切望したる所領を受取りたる以上は最早老王に用なし其顏を見るだも懶うし如何で之に侍づかんや成るべく

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遠ざかりて父の傍らにだも來らず强いて姫は何處にと尋ぬれば久しく病にて伺ひがたしと云ふ眞に惡むべき不人情なり左れば之に使はるゝ婢侍どもは素と客人を疎畧にすべきものなるを况して主人が此の行ひを見ては得たり貌に横柄なる取扱を爲し老王に從ふ百人の士どもを木の葉の如く見下げて失敬無禮なるもてなしを爲したり。

抑も輕薄の人を善き行ひにて喜ばするは難く忠實正義の人を惡しき持てなしにて怒らするは更に難し大凡そ眞の愛情あらんものはわが愛するところの人何如にわれを取扱へばとて其行の快よからぬによりて直ちに情を滅するとあたはざるものあり况して忠義の膽鐵よりも固く老王を愛すると眞の子よりも過たるケント伯は英領内に足を留めたるを發見せば直ちに死刑に處せんとの嚴命恐るべからざるにはあらざれども王の先途を見屆けざれば先づわが身を安んずるの策を立つるの勇なし如何にもして身を密そめ王の傍ら近く寄つて之を守護せばやと覺悟しつゝ威嚴を損して奴の形をうつし身を落として貧しげなる樣子にやつし王の僕となりたきよう願出でたり此時老王は兼ねて一身の隨從としたる百人の士どもを止を得ず悉く散らし長姫の無禮を怒りて世のはかなきを歎じ人間の決して賴むべからざるを觀じ居られたる頃なれば斯くも自ら願ひ出てゝ僕とならんとするものを最と賴母しく思ひ召び出して之を見るに言ばつきの粗暴にして時々禮を欠くなど反つて眞心見へて忠義の程も知られたり蓋し甘言佞辭の僞り多きを怨めるの日は質朴淡泊の言語を尤も喜ぶの時なれば此折ケント伯が特更に平常の躰をかくして田舍人らしき言葉を遣ひたるが反つて大に老王の心を得たるものと知るべし斯て后ち許を得て當日より召使はるゝと成り名をカイアスと唱へて日夜老王のそば近く侍づきたり。

● 佳傳

○エリサベス、フライ夫人の傳　(其二)

夫人は一度びニウゲートの獄舍の有樣を見てより之が改良と囚れ人等の敎育とに身を任ぜんとの熱心身を食ふ程なれども色々の妨たげありて直ちに之に着手するとの出來ざりしが西歷一千八百十六年即ち夫人が三十七の歲の十二月クリスマス祝祭の頃よりして始めて其運びを得るに至れり當時最始獄内に入りて見るに半ば身を露はしたる女囚等殆んど人間ならざる如く騷ぎ立ちて姦邪不善の談話に終日を送りたれば恰か

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も獸の檻に入りたる如く思はれたりと記るされたるも理はりなき言にはあらじ斯て第二回の見舞の折には此の女囚等の中に立ちて馬太傳第二十章を種とし葡萄園のたとへ話を題として敎への說敎を爲したり聽けるものゝ中には抑もイエスとは何人なりやと問へるもあり亦た死したる後の審判を最と恐ろしとて悲しみたるもありたりとぞ。

然れど夫人は先づ獄に囚はれたる女囚どもの子供を敎育するとを第一の改良法と見認め同志の人々に說きて遂に其學校を打ち建て亦た之が敎師となるべき人を募りたるに喜びの涙にむせび乍ら之に應じたる少年もありたり依りて此の少年と同志の婦人二三人して彼の憐れむべき小供等を敎育したるが後には獄舍に在る女囚どもゝ自ら何事かの仕事を爲て其入費の助けとなさんとを請ふに至れり又クエーカル派の信徒中にて僧の妻及び十一人の女の方々にてニウゲート女囚改良會と云るを起し女囚に衣服を與へ亦た之を敎育し且つ之に職業を授くる事並びに之に敎への道を授くるとうを專務とするを主意としたり然るに此會より設けたる獄內を取扱ふ改良の規則案も役人の同意を得たれば則ち之を以て女囚どもを管理し成べく靜肅謹愼にあらすべきやう相定めたり。

此規則甚だ善く行はれたれば獄內の景況暫時にして全く一變し前日の如き騷々しき有樣を見ざるに至れり則ち其後二週日ほど經ちて此の獄舍を巡見したる一紳士の記るし置きたるものを見るに云く余は此の獄舍に行てフライ婦人に面會せんとし案內を請ひたるに恥かしからぬ婦人出でゝ之に應じたり之に伴はれて先づ女囚どもの居る室に行たるに曩に來人あるときは皆々集りて何か笑ひそゝめき最と物騷がしかりしが此時の摸樣全く之と變はり居たり室の眞中に置たるテーブルの一方にクエーカル派の一婦人何ものかを讀みて聞かするを其傍らを取廻いたる十六人餘の女囚それ〴〵の仕事を爲ながら謹んで之を聽聞したり余が此の室に入りたるときは總躰に起立して禮を爲し其後は只た無言沈默して物音もさせず其容貌を見るに姦らはしき邪惡のようすなく何れも何となく自尊の躰を現はせるなんぞ昔日の有樣を悉でとく一變したれば余も大に之を驚歎したり云々とあり此の記事によりてフライ夫人及びその他の婦人どもが獄內に働かれたる感化の勢力甚ださかむなりしとを推して知るべし。

田舍の片ほとりにウメートの獄舍內に於て一個のフライ夫人が斯靜かに働かるゝ事は當時世上一般の大問題と爲り學者政

事家志士役人ともより其のあたりの道ゆく旅人まで多く此の獄舎を見舞ひて獄内の樣子の一變したるもようを實見せんとを乞へり特に一週に一度と定めて夫人が自ら女囚中の信徒を集めて說敎さるゝときハ多くの人々も相集りて之を聽聞せんとし彼のマッキントッシの如き學者も亦た喜んで之に會し夫人の熱心嚴肅なる談話を聞て淚を流したりと云ふ。

平常の敎導斯の如くなれバ數多の女囚が前非を後悔して罪を改めたるもの素より多く又た之が爲に職業の道を得て出獄の後ち正直の生計を立て得たるも亦甚だ多きとなるが其中にも特にぬきんでたる立派の人となりて最初は社會の虫となれりしが今まは世の中の働き手となりて世の利益を圖りたるものまた尠からず彼のマーリーコンノル夫人とてニウゲート學校の女敎師となりたるは即ち初め女囚にして後ち上流の貴婦人と相成りたる女方の第一に居れるものなり。

フライ夫人が女囚改良の事につきて盡力ありたるもの甚だ多く中々に得て之を盡すべきにあらざるが中に或る時は夫人自ら兩議院の委員の前に立つて右改良の方法を演述し又或る時は此事に關する事柄を雜誌に認めて公やけに出版し又諸外國に在る慈善家と通信して互に意見を交換し或ハ又た女囚改良奬勵婦人會を設けて之を中心とし數多の盡力を及ぼされたるなど尤も著しきものなり此中彼の婦人會の第三年期の集りありたる翌日夫人自ら其日記中に認めて云ふ昨日は朝たより甚だ心地あしかりしが集りの事なれバ喜んで參りたり自ら考ふれば何如にしてか斯る大なる事業の成就したりや今は斯くも多くの婦人が數多の獄舎を見舞ハるゝとゝなれり又た女囚の中に悔ひ改たむるもの職に就くもの甚だ多くなれるなど考ふれバ吾れ乍ら其出來果の驚くべきとを思ひたり實にあハれなる一の器械をもて斯る大業を起すの元因と爲したるとは尤も不思議なる心地せりわれは素と自然の感情甚だつよく家族の事を思ふ情の甚だ鋭かりしなればもし神が此心を他の一方に向けて少かなりとも斯る仕事を爲し得るように導き玉ひしにあらずバ中々に自から此樣なる事業を爲し得ざりしとならんと以て夫人が妻とし母としての情甚たあつかりし趣を推知すべきなり。

○批評

浮雲の褒貶（一）　　石橋忍月

「唐の風流人言えるあり美人多くは薄命と予も亦た此口調を學んで言はんと欲す好著多くは貶毀を受くと」是れ予が曾て

小説妹と背鏡を批評せし時發したるの言あり予今小説浮雲を批評するに當り亦た此憾みなき能はず方今は小説の社會なり其梓に上るもの陸續無數の中に就て巍然頭角を顯し眞小説の躰裁を備ふるもの浮雲に非らずして何ぞや浮雲の著者を誰れとなす二葉亭四笑(長谷川氏)其人なり縱令春の屋主人の補助修正ありとするも其腕前に至ッては全躰を以て推想せられ實に敬服に堪えざるなり然れども予か斯く敬服するに引き換へて此著世人の貶毀を受くる最も甚し夫れ小説を批評するに當り理由なくして之を褒貶毀譽し或は縱令理由ありとするも其理由眞正の理由に非らざれは誰れか其褒譽を有り難しとせんや況んや貶毀に於てをや熟々新聞雜誌上の批評を見るに褒貶の點に至ッて有り難しと云ふ程の價値ある者少なきが如し方今讀者の眼何ぞ冷淡なるや批評家の褒貶何ぞ不親切なるや予は浮雲の著者よりアイスクリユームの贈與を辱ふせしと云ふ譯に非ず又葡萄酒一ダースを頂戴せしと云ふ譯にも非らざれば素より批評するの義務もなけれは褒貶するの責任もなし其責任もなく義務もなきに係らず炎熱を冒して此文を草するは蓋し讀者の眼を濃厚にし批評家の褒貶を親切ならしめんが爲めにして文學の隆盛を祈る老婆心なり

小説の要は人物の性質、意想を寫すに在り地位境遇の變化は其性質、意想の發現に如何なる影響を及ぼすやを畫くに在り社會一般若くは一部分の風俗人情を記載し後世をして當時を推想せしむるに在り熟々考ふるに方今の風俗は卑賤の風俗なり方今の人情は浮薄の人情なり眼中宗敎なく輿論なき浮華の少年と無操の婦女と自由に交際せんとするの社會なく口廉潔優美の言を爲すも行ひ未だ必ずしも之に伴はざるなり然らば苟も世の小説家を以て自ら任する者は此の風俗此の人情此の社會を實寫することそ其本分と云ふ可けれ只訝る近世輩出の小説家(一二三書を除く)脚色の爲めに人物を動かし人物の爲めに脚色を構造せさることを又外觀の華美のみを寫して性質、意想の解剖をなさゝることを或は强て廉潔優美の人物を造り或は獨儀式張りたる場所に於ける活潑高操の行爲のみを注目して浮薄の情卑賤の俗を搩らざるが故に恰も社會の品位は高尚なるが如く風俗の卑賤は矯正し盡したるが如し凡そ人々交際間に於は其躰裁を粧飾するが故に只其表面のみを觀察して裏面の如何を探らざれば優柔も果決と見え不品行も方正と見え浮薄淫冶も實直謹愼と思はるゝなり是を以て小説家は須らく知る可し「小説の妙は表面に現はるゝ假粧虚飾の美觀或は完全の

人物爽快の脚色に在らずして性質、意想と地位境遇との關係若くは區々たる平凡の人物が之を行爲に現はす迄に如何なる經過ありしやを寫すに在ることを」

予ハ先づ浮雲の褒譽す可きの點を掲げて冷淡なる讀者と不親切なる批評家の注意を仰がんと欲す

第一、浮雲の著者は小說を知る故に人物を主として脚色（文章）を客とし脚色（文章）の爲めに人物を使役せざるなり小說の主眼は人物に在つて脚色（文章）ハ末技なるのみ

第二、浮雲の著者は小說を知る故に性質、意想を寫し又は地位境遇の變化と其性質、意想の發現との相關を畫く甚だ精密にして「嶄然頭角」の實之に存す

第三、浮雲の著者は小說を知る故に卑賤の風俗浮薄の人情及び言行不伴の社會を實寫したり故に後世をして明治の今日を推想せしむるの効ある者なり

第四、浮雲の著者ハ小說を知る故に故意に平凡なる不完全の人物を以て主人公となし強いて廉潔優美の人物を作らざるなり表面上交際上の高操華美の運動のみを記して人情を穿ちたりと早合點する者に非るなり殊に未だ之を所爲に發せざる以前心裡に於て彼を思ひ之を考え一決一迷躊躇兩岐に彷徨し足を擧んと欲して擧げず手を下さんと欲して下さゞる時の意想を穿つが如きは妙所中の最妙所と謂ざるを得ず

以上ハ大躰に就て浮雲の賞賛す可き點を擧げたる者なり余は浮雲中の箇所を轉出して斯點は意想の眞、斯點は風俗の眞を寫したるものなりと一々指示するハ容易なりと雖も其冗長に亘るを恐れて言はず讀者幸に其心して之を讀まば首肯する所ある可し余ハ是より次號に於て世人の此書を貶毀するの理由其當を得ざるを辨駁し徐々歩を進めて持前の惡口に移らんと欲す

（未完）

●小說

○薔薇の香

第八回　校內のうはさ　　月の舍　しのぶ

横濱の山手に英和女校と云へるあり外國の宣教師方が海外の有志者より寄附したる金を以て廣大なる建物を造り年に幾千の金を費やして日本の婦女子を敎育せんことを旨とし數年來只だ信切を專ばらとして子供等を敎へらるゝにぞ玆に入りて學文する娘等いまは百數十名もありと聞こゆ此書生等は元來外國敎師の風俗を日々に見聞して何事も西洋風をば主とすれば

源氏物語は何如なるものか頓と耳にしたることもなけれどもスカット、デッケンス、ザッカレーの小說は大抵讀盡したり平生の談話も日本語にては意味を盡さゞるの心地す兎ても洋語の圓滑完全したるに如かずとてお早うよりお休みに至るまで多くは日本語を用ひずと云へるやうの傾もあれば既に入舍后二三年ほども經たらんものは志想樣姿など甚だ開化しなか〳〵深窓に養はれたる大和なでし子の古風は寸分も殘らざるに至る左れバ其が平生の談話なんども餘程西洋人めきて日本人が平氣に談すことを胸わろくする程に嫌ひて口にせざることもあればバ亦た內氣なるお孃が顏を赤らめて申すまじきやうのことを至つて平氣にて語らるゝもありと云ふ彼の西洋婦人が會話の一つの種とする所云るエンゲージメント(結婚の約束)の事を平常甚だ喋々するごときハ此流の人々に有ふれたることにして物なれぬ父兄の喫驚する所なるべし。

今日の課業最早や終りて今まは晩食後遊歩の時間なるべし二三人づゝ手を繫いで園內を散歩するとあれバ七八人一組と為つて西洋風の鬼追遊びなすもあり木かげに靜まり反つて夕日に書を照らし見るは稍や高等の人なるべく立つては屆み屆みては立つ五六の稚兒は草の合ひ間の草をや捜がすなるべし思ひ〳〵のなぐさみに餘念もなき折柄校堂內のヲーガン洋々とひゞきわたり唱歌の聲一齊にさえて聽こえたるは內に留りて遊ぶ一組の樂しみなるべし暫らくにして其聲は止みぬ樂を奏したる女生徒尙ほヲーガンに向ひ之を取卷ひたるものゝうち一人二人はうしろの腰かけによりぬ餘りの大聲してなど少しく疲れたるか一二分間は悉く無言なりしと知らる。

チヨイト、あなた、青山さんの談をきひたノ

青山さんテあのうちの青山さんですか

イヽエお榮さんの兄さんでホラ……

アヽそういつか玆で演舌なすつた方でせう……どうしたの

エンゲージなすつたとさ

ヲヤソウどなたと

白河さんでせう、ホラあの東京女學のさ、能つく知つてるのよ

トサ思ふのが普通の考サどうして〳〵

ダツテあの方と白河さんとの交際は有名なものでさあ子そして兩方とも偏屈ですから似たもの夫婦でせうヨ

あなたそうですか

イヽエ

それジャ早くお言ひよ

そんなに聞かなくつても好じやありませんか誰かはちい

いつと變ですワ

だつて言はなきや聞たいワ

それじやお言ひませうがネあの矢張東京女學の方でサ波羅さんテ、、、

お香さんですか

ソウよ

此時互に見合して無言なること二秒間あり元來此方々の談話は大抵洋語ありしを忍こと〴〵く速記法にてかきとめ後に漸く反譯したることなるが筆の運びの急しくして苦しきこと非常なり右二秒間にわれも亦たホット息氣をついたることと知るべし

チヤ、マ、ソウどうしてネー波羅さんと實に愛は人をめくらにしますよ

波羅さんは着物の美術館でお世辭の製造所サ書物は小説で書籍室を建て丶頭腦は踏舞乘馬交際の鹿鳴館でさわネそれがわんな自稱哲學士、、、しかも理窟ばかり言つて夫婦は何の爲に世に必要かと云ふような人と連合になるどうも世は不思儀ですネー

ダッテあなたセレーはゴッド井ンの方が好しバイロンはガイッシヤリ夫人の方を好んだでせう學者は學者の女を愛するッてはまだ考の至らないのよ

イヽエそうばかりでもないのよ私しはあの學校の内海さんと心安ひですから能く聞きましたがネ青山さんは初め大變波羅さんを嫌つて時々會つても話はろく〳〵仕ないで妙な失敬な評ばかし下して居たとサするとネ波羅さんは例の容姿自慢でせう私輩のこの立派なる顏色に迷はないと云ふ男があるものかそんな失敬な奴なら一とつ引きつけて十分苦しませて遣ると云ふ決心でサなほ〳〵近づいて交際を求めたとサ

ヘエー(と云つて首を少し曲ぐるものあり)

スルト合性は妙ですネー青山さんが段々に和らかくなつてサ波羅さんが段々と嚴粛になつたとサ

ソレが即はち男女交際の結果よ合性ばかしでなくつてよだれでもそうなるものですよ

マ、どうか知らないがネ兩方で段々と眞正の眞實をもつて交はつて來て餘程變はつて仕舞てサそれで波羅さんなんどは此頃は樣姿が一變したと云ふのよ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

アーそれでですか此間ちよつと波羅さんにおつたのよするとチ黒の服に大そう淡泊なかざりを爲て例の白粉などはことゞく廢止サいつもにない書物を持つて少し考て居るよう也風でしたからコリヤー餘程進歩なすつたと思つて居たのよそうですか分りましたそれでゞすか

チヤお榮さんが來たよカムイン、ミスアチヤヤ、

窓の下より丸ろき、赤かき、にこやかなる例の愛らしき顔を出して、ナアニと云ふ返事が窓より入り來らぬうち當人は早や走しりて廻り來たれり

ナンカおもしろい話がある／

青山さんお目出とうさぞお喜こびでせう

なにがサちつとも分らないのよなんですか、エ、エ、

お兄ひさんがエンゲーヂなすつてお姉ゑさんが出來てさぞお喜びこでせうと申しますのサ

なんですッて兄が約束しましたッテ虚言バッかしどうしてなか／＼そんなとをしましたらそれこそ本當にうれしひのよ

ダッテなすつたテ中川さんが仰しやるんですものチなんたかくしたッてつまらないじやありませんか

青山榮はキットして中川にむかひ

だれにおきゝなすつた／

内海さんからきひたのよ

だれと約束したのですか

波羅さんと

それでもそれは何かの間違ひです屹度間違ひでせう私は兄を信じて居りますから若しもサそんなとをきめまして他樣に知れるほどならば夫れよりも先に私に言ふてくれます相談も致してくれます未だ何んとも申しませんから屹度うそです

丸るい顔に少こし角が見へて赤い處がちつと濃くなり平生のにこやかな容貌が稍や影をかくしたれば人々もちとつゝしみて沈まりたり。

●新報

○日本の女學　右第一卷本石町の日本女學社より出版す一册定價十二錢にて毎月一册宛發行の由材料は悉く女學雜誌女學叢誌成立學舍女子部講義錄學藝雜誌の類より抄出したるものにて其他に一篇の新文字なきやうに思はるれども讀者が諸雜誌の花を一覽あらんとには至極に便利なるものなり

○女子佛學校　方今我國にて英語の流行甚しく至る處英學校の設立あるも歐米諸國の上流社會に在ては交際上佛語を要し殊に貴婦人にして佛語を知らざるものは暫くも交際社會に立つ能はざる程なれば我國の婦人中にても近來益々交際の盛んなるに隨ひ佛語の教授を望む者多きより今度神田猿樂町六番地に女子佛學校と云ふを設け來る十日より開校する筈にて其科目は佛書佛語を主として西洋婦人手術一切、西洋禮式、同料理法、裁縫、音樂、編物等總て女子の爲め必要なる學科其他幼少なる生徒のためには殊に尋常高等小學科をも教授し殊に婦人の品行を矯正するを旨とし且つ西洋の高等女學校の教則に基き寄宿舍の規則も頗る注意を加へ生徒の爲め特に醫師を置く抔一も遺す所なきが如し教員は洋婦人四名本邦人數名又他の外國貴婦人なども熱心に輔助あるよしに聞く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○福岡婦人協會　同會ハ去る十八日事務所に於て月例會を開きしが會員三十四名隈本、神吉二氏の演說あり目下歸省中なる帝國大學の學生中にて傍聽に見えたる人ありしと同地よりの報

○濱松婦人交際會　遠州濱松にてハ去る廿日田町玄忠寺に於て同會の第二會を開きしが會員ハ七十餘名にて大川すゞ子、藤村のぶ子、杉山しん子、鈴木てる子等の演說及びオルガン入の唱歌讚美歌等あり其他役員を撰擧せしか會長ハ厚芝てい子、副會長ハ杉山しん子、幹事ハ花井よね子、大川かく子、書記ハ藤村のぶ子が當撰したり

○ステルジイス女學校　長崎港大浦東山手十四番地に新築中なる同校ハ最早大略落成せしを以て來る十四日開校するよし同校教員にハ從來假教塲にて英學を教授せしミス、ブロッコー氏の外に是迄米國紐育に於て十數年間女學校の教師たりし某氏を聘する筈にて近日來航する趣きなり聞く女史は年齡殆んど四十に近く教育老練家の聞え高き人にて今度米國リフーオドミッションより新撰して來航せしむるとの事なりと

●海外女事

○婦人力役同盟の計畫　合衆國にハ元來ナイツ、オスレーボルと稱する會社ありて各業の力役者を保護するヿを目的とし主として資本家の苛酷を制限し以て雇主及び雇人を調和するヿに從事せしが去月十八日の紐育ヒリビユンに掲けたる同月十七日波士敦發の通信に據れば該結社中にハ種々の業務の人加入せるを以て往々利害相反し協同一致の力薄く從ひて其會議に參列する者も少なく勢自ら結社全躰の衰微を成すに至りたれば波士敦の有志者ハ右ナイツ、オフ、レーボルに代ふるに更に婦人力役同盟會を起さんヿを發議せり此目的を實行するこの有志者等ハ八月中旬を期して同府に一會議を開くべし己に右會議のため相當の家屋を供せんと申出たるものもあり蓋し波士敦を先鞭として漸次他の右市府にも此企業を施き及ぼすの計畫なるべしと云ふ（本年八月廿五日官報）

○英國婦人禁酒會　同會ハ去る六月廿一日を以て擧行せしビクトリヤ女皇陛下の即位五十年祭に一篇の祝文を捧呈したるが其祝文ハ同會の三百五十七支會、會員二萬四千人の代表者たる同會々長マーガレット、ビー、ルーカス夫人の調印せしものなりと云ふ

○貴女裁縫器械　今度米國にて發明し同國政府より專賣特許を受けたるヤング、レデース、ソーイング、マシン（貴女裁縫器械）ハ至極輕便のものにて其價も僅かに米國金貨五弗なれバ需用者甚だ多く一日の製造高平均二百四十臺に達せりと云ふ然るに曩に米國に總領事たりし高橋新吉氏ハ曾て此器械を一見し歸朝の節一臺見本として携へ歸らるゝ都合なりしも故ありて其運びに至らざりしかバ同氏も之を遺憾の事と思ひ居りしが今度京橋南鍋町橋毛組にて米國の製造元と特約を結び一手賣捌をなす由にて近日數臺廻送し來る筈なりと云ふ

●本誌には餘白なきを以て寄書の一欄へ先般カートメル孃歸國のせつ米國へ送りし書は兼て本誌に掲載せしが都合により掲載を見合せたり

●左の書翰ハ曾て大坂の婦女交際會員より目下公判中なる國事犯被告人の一人なる景山英女が鐵窻の下に呻吟するの身となりしを深く感するの餘其の憂鬱を慰めんとて若干金を義贈し之を差入たるに英女より同會員へ送りたる所の謝禮狀なり

炎威赫々たるの候諸位愈々御清適奉恭賀候降而愚妹事幾日に長崎に於て縲絏の辱を蒙りしより爾來茲に二回の春秋を經過仕り漸く今回開庭の運びに至り候次第御推察可被下候扨諸位にハ天未だ良緣を假さずして膽拜を獲ざる所謂無形上の御交際なれバ諸位等ハ果して平素如何の御卓見を持し玉ふ乎愚妹推知するに由なしと雖ども今愚妹が斯く脆くも鐵窻の下に呻吟するの不幸に遭遇せしハ啻に一己の私事に非らずして即ち國家の爲めに犧牲となりたる事なれバ宜しく其憂鬱を慰すべきなりと斯の如く金員若干御差入被下御厚情を辱ふせし事と愚察仕候然る時ハ諸位等ハ實に憂世愛國の志操に富まるゝ女丈夫にして將來愚妹の敬愛親交せざるを得ざるの諸位なり亦愚妹の尤も國家の爲に諸位等女丈夫の現出せしを祝賀して止まざる所以なり或人の言に今や婦女子にして丈夫なる者あり亦丈夫にして婦女子なるものあり余此に於て以て氣運の盛衰を卜するなりと宜なる哉此言や今愚妹や愛國の熱情溢れて嗚呼間歎も有爲の志士仁人が驥尾に附し斯の如き不幸に遭遇せしが誠に薄學無識にして充分諸位等に御滿足を與ふ事の高識卓見なく空しく茲に幾年間の不用の身と相成候事と愚考仕り痴をして尙一層の痴たらしむる事と轉た慷慨の至に御座候次第御憐察可被下候承り候得者諸位等ハ過日ゟ大阪婦人交際會なる者を設立せられしと愚妹も誠に大賛成に御座候御承知の如く我國ハ實に婦女の交際甚だ少否なる啻に少なき而已ならず殆んど絕無と云ふも敢て過言にハ非らざる事にて愚妹も熟考する所にてハ我國の進化せざるも多分婦女交際の如何に大關係を有する事と信し居候何となれば歐米各國にて婦女が或ひハ燕會に或ひは公會に外出して廣く人に交るの風俗ハ種々の差響を社會に與ふる事にて第一智識を開發するの道第二自ら品行を端正になす等其他交際の與ふる利益ハ多々なるが之に反して東方諸國殊に支那及び我邦の如きハ女子として唯だ深窓の下に孤居せしめ其父母兄弟婢僕の外ハ曾て相見相交るを得ざらしむるの女教なりしを以て歐米婦女子に比較し其懸隔の趣を考ふるに其東西國俗の上に今日の如き優劣あるを致したるも大に婦女交際上に關係なる事と愚察仕り候次第然るに當時ハ一般に女學甚た隆盛と相成り從來の如き女教全く一變せる事と愚察仕居候事にて諸位等も奮發苦勵なし玉ふなら女教の維持日を期して待つべき事と今日より未來を豫想仕り雀躍仕候次第何卒國の爲め御奮發あらんヿを而して茲に一寸諸位等の御參考迄に供し度事有之候是等の如ハ疾にも御了知の事と存候得共猶乍失敬愚妹の老婆心を至極簡短に御參考に供せんに總て我國人の氣風たる一事一物をなすに敏なるも惜ひ哉前勇後怯龍頭蛇尾の謗を免れざる事古來往々有之事に御座候得ば此意を御賢察ありて益々其會をして盛大ならしめ他日歐米文明國の婦女社會に卓越するの結果あらん事を渴望懇願の至りに不堪候此外婦女交際ハ勿論男女交際上の事に付き少々愚意を御參考迄に供し度心得に候得共紙數限りあり且つ筆硯も拙鈍に候得バ他日亦た申上候先は御禮旁如斯に御座候頓首百拜

在監人　景山英

大阪婦女交際會御中

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

特別廣告

東京婦人矯風會々員姓名宿所表（第四回）

日本橋區の部（前號に續く）

蠣殼町二丁目一番地松井方	村田忠
同町三丁目十一番地	加藤志げ
通油町一番地	高岡多賀
小傳馬町二丁目十三番地	星野てる
數寄屋町二番地	片岡はる
同	小井元
蠣殼町一丁目四番地	鈴木まつ
同	同　かい
元大工町一番地	貫志たみ
品川町裏河岸八番地	特　佐々城本支
本船町十八番地	同　島芳清
本銀町二丁目十番地	樋口楽

京橋區の部

築地明石町十一番地	本田順
三十間堀二丁目	江藤まさ
築地一丁目十六番地	潤田千世
同明石町十五番地	上原みね
同町十三番地海岸女學校	小崎百壽
同	櫻井みな
同	元良よね
築地一丁目二番地	石原くに
水谷町十一番地	加藤せん
築地新榮町四丁目一番地	小島さよ
三十間堀一丁目三番他石川方	松村れい
同	大金さみ
同	神代るい
同	永松志つ
同	坂田きう
銀座三丁目二十一番地	齋藤つや
越前堀二丁目三番地	中川榮
木挽町三丁目二十一番地	渡部春
築地一丁目十八番地	荒川八重

廣告

○鈴木弘恭君講述○山村亮作君筆記

つれぐ草講義

定價十二錢 郵税四錢 第一號

右は鈴木弘恭君の講義ありたるを山村君の筆記せられたるものにして其解釋の綿密なる一本を机上に備ふる時は五里の霧中を出でゝ霽晴朗々たるの天色を見る心地す四方の貴孃諸子請ふ續々講讀あらん事を

○統計局次長世良太一君序○統計協會議員呉文聰君序

婚姻論

○朝野新聞記者 横山雅男君著

○定價一冊三十五錢郵便税十四錢

右は横山君が得意の統計學上より婚姻の定義其外早婚晩婚雜婚離婚などすべて婚姻に關係する事物は擧げて殘す所なく議論の確實なる擧例の精密なる世の父母たるものも亦た青年の男女の方々必讀の書なり

東京新橋日吉町八番地 女學雜誌社

日本の女學

東京高名畫工數名密畫毎號挿入

（第一號挿畫）◎皇后陛下華族女學校へ御臨行之圖（芳年）◎女學女藝四季花分の圖（國松）◎女子裁縫場の圖（吟光）◎女子養蠶の圖（月耕）外數葉

第壹號

八月廿三日發兌毎月一回頒美麗本一冊紙數八十頁餘定價一冊拾二錢半ヶ年六十七錢一ヶ年一圓卅錢郵税一冊二錢宛郵券代用ハ一割増●注文ハ都テ前金ヲ要ス

●目次●皇后陛下思食書●社説日本之女學發兌の趣旨●論説矢田部良吉、宇川盛三郎、高木兼寛●學藝三項●史傳翠香院小傳●工藝洋服裁縫部●叢話、小中村義象、伊澤修二外一項●家政、經濟瓜生寅、土子金四郎●割烹日本支那西洋●文苑數首●小説○朧のふせや○薫の橘●時論數項●批評數項●寄書●雜録●東京府女子賞典録數項●日本全國官私女學校教員明細録●雜報學事要件數項

發行所 東京本石町三丁目 日本女學社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

同志社女學校高等普通豫備幷ニ別科生徒募集廣告

本校ハ從前ノ學科ヲ改正シテ高等普通及ヒ豫備ノ三科ト爲シ一層課程ヲ高尚ニシ有益ナル女子ヲ養成スル所トス且ツ米國ヨリ女教師ノ來着アレハ更ニ別科トシテ割烹、裁縫、編物、音樂、會話科等ヲ置キ便宜ニ從テ專修セシム共ニ來ル九月十九日ヲ以テ開業シ入學試驗ハ十五日ヨリ執行ス志願ノ淑女諸氏ハ九月十五日迄ニ申越シ有之度規則書ハ郵券二錢御送附アラハ早速遞送可仕候

西京同志社女學校

女生徒募集廣告

本會ハ女子ヲシテ日常欠クヘカラサルノ業事ヲ授クルノ目的ヲ以テ西洋女教師並ニ各科良教師ヲ聘シ英語學西洋服裁縫編物縫取其他凡テ婦女子ニ必用ナル課程ヲ無束脩ニテ教授ス滿十二年以上ニシテ入會望ノ者ハ至急申込アレ

但シ規則書望ノ者ハ郵券二錢ヲ投セハ送呈ス

築地三丁目十二番地

女子講習會

文學士辰巳小二郎先生著

西洋日本 女權沿革史

定價二十錢

先生の此著や古來日本に女權有りし事を知らしめ且今日の女子をして和洋の風儀を折衷するに便ならしめんとの本意なり、故に文章は振假名附にて解し易く例證故事は新にして奇也、西洋の部には希臘羅馬以後歐洲歷代の女權沿革を述べ、日本の部には古事記、萬葉集、儒佛經典、大寶令律、貞永式目、德川百箇條等の書籍より例證故事を引かれたり、去れば女子に限らず男子も亦一讀して利する事少からざる可し。幸に江湖の貴女紳士愛讀あれ

發行所 東京本郷 **哲學書院**

●結婚媒妁所

東京日本橋區檜物町一番地河岸通リ角

全國何人ニ限ラス嫁聟養子共媒妁依賴ニ應ス御來談ヲ乞フ

發兌

九月。三日 十日 十七日 廿四日
十月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十一月。五日 十二日 十九日 廿六日
十二月。三日 十日 十七日 廿四日 三十一日

定價

一册。五錢 郵税。一錢（但府内無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢（同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行（廿七字詰）一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる書物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町鬪々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新銀町眞明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐